



公表

事業所における自己評価結果



事業所名		希望のひかり		公表日		7年 3月 1日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	1	4	活動ごとにレイアウトを変えている。	日によって手狭と感ずることある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	4		基準は満たしているが、したい事を待たせてしまうことが多いと感ずる。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	4	特に情報伝達は密に行っている。	もう少し子どもの目線でわかりやすい構造化が必要と感ずる。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	1	4	隙間のスペースを使って	室内の整理整頓が必要。建替え必須。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		5	仕切り壁になっている。場合により場所を変える。	聴覚過敏の方、クールダウンの必要な方のスペースが必要。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		計画→実行→評価→改善の流れを各職員が意識をし日々の業務に取り組む。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		年度末にアンケートを実施し、その結果を踏まえて次年度で業務改善を行っていく。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		会議にて各職員が発言しやすい環境の設定。全体で協議し、すぐできるところから業務		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		年間または、シリーズを通して各職員の実施しやすい日を選べるようにしている。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	1	4			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		アセスメントからストレングスに着目し、楽しみながら取り組める計画になるよう心がけている。	常にストレングスを活かし、スモールステップでの立案を心がける。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		全ての計画を全スタッフが目を通し意見出しをする。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		連携から得られる情報もしっかり確認しながら日々の支援に活かしている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		立案はチームで行うが、具体的には担当を決めている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	2	みんなで一緒に取り組める物、手作り感のあるもの等を多く取り入れている。	公共交通機関を利用した外出や体験。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	1		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		特に、発作等の確認事項、学校からの申し送り等の共有。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		それぞれ記録を入力しながら全体で振り返りを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		日々、確実に記録は残している。それを見返して検討することも多い。	個別支援計画に基づいた内容も残していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		基本的には6ヶ月の間でモニタリングだが、状況によっては早い段階で行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	1		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		子どものうちから正しいかたちでの「自己決定」ができることを目指している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		日常に関する年間計画や行事などの情報は共有できている。	災害時や送迎時のトラブル等、協議の必要があるため投げかけていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	2		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	1	サポートブックの活用や、必要であれば情報提供の準備はできている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	4		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	4		地域のお祭り参加や防災訓練への参加をしていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	5		利用時の連絡帳もあるが、電話でお話することを細かく実施している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1		今後ペアレント・トレーニングは実施していきたいと考えている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		いつでも相談対応しています。電話でも面談でも可能です。場合によっては関係機関に伝え会議の開催等実施。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5		「大人のひかり」（両親・きょうだい児等誰でも参加可能）を1年に3～4回開催、レクリエーションやトークセッション等の企画で交流している。	きょうだい児へのアプローチをもう少し具体的に考えていく必要がある。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情や困ったことも言いやすいような関係性づくりを日常から心がけている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		まちこみやラインでご連絡している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	1	地域の音楽隊の皆さんに演奏をお願いし、そこに外部の方も聴きにきていただく。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	2		変更があった場合はその都度お伝えしていく必要がある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		2ヶ月に1回は災害状況を変えて実施している。	訓練を経験していない子どもがいないようにしていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		てんかんは医師の指示書、ご家庭の同意書をいただいて発作があってもすぐに対応できるようにしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			マニュアル類がご家庭にもわかりやすいように1冊にまとめて作成しようと考えています。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1		マニュアル類がご家庭にもわかりやすいように1冊にまとめて作成しようと考えています。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		会議ごとにヒヤリハット件数及び内容を確認し原因と対策を共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		職員が企画をし研修等実施をしていくことで、客観的に個々の支援を考えることができるようにしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		どのような場合、という日常であり得る例を挙げてわかりやすく説明しご理解いただいている。		